



㊦門司港レトロ地区に登場したハートの模様。奥に跳ね橋の「ブルーウイングもじ」が見える
 ㊧駐車場のれんが壁にもハートが隠されている

門司港レトロ地区（門司区）と対岸の山口県下関市で、ベンチや赤れんがの壁に彫り込むなどしたハート形の模様が登場した。10㍍に満たないハートも含めて計7カ所あり、北九州市門司港レトロ課は「案内板などは作ってなく、全部見つけたら幸せになれるかも。写真に撮ってインターネットでも発信して」と呼び掛けている。

北九州、下関の両市が「関門エリアを回遊するきっかけに」と、昨年12月に整備。レトロ地区の跳ね橋「ブルーウイングもじ」、下関市の「海峡ゆめタワー」が、共に「恋人の聖地」に認定されているため、ハートを採り入れた。

門司港と下関 7カ所に登場

レトロ地区には4カ所設けた。市立国際友好記念図書館前の植え込みには、タイルや石で約1㍍のハート模様を作った。近くの駐車場のれんが壁▽踏切付近の歩道上▽ブルーウイングもじ横にある石のベンチの3カ所には、約7～25㍍のハート模様を彫った。

下関側のハート模様は、複合商業施設「カモンワーク」前のフグのオブジェ▽水族館「海響館」の出口付近▽海に突き出た灯台一の3カ所に設けている。

同レトロ課の担当者は「関門エリアには他にも写真映えするスポットが多い。ハートを探しながら楽しんでほしい」と話している。
 （諏訪部真）

♡
見つけてお幸せに!?